

現実の諸課題に対して、当事者意識をもって主体的に解決しようとする生徒の育成

—現実の諸課題をテーマにしたパフォーマンス課題の設定とスモールステップ方式による協働学習を通して—

特別研修員 公民科 安田直剛（高等学校教諭）

自分や社会にある偏見をなくしないと多様性は実現しない！今ある格差を是正することも「公正」の一つであり、女性枠を設置して社会の意識を変えるべきだと思う。多様性を当たり前だと言える社会を作るために、自分とは異なる人の意見や考えも受け入れて、一人一人の個人を尊重していきたい。



Step3 当事者の背景理解
入試に女性枠を設置した大学の狙いは何かな？課題に直面している大学の背景を探ってみよう。

Step4 様々な当事者視点からの考察
自分事として考えた立場と、問題に直面する当事者として考えた立場を踏まえて、多様性と公正性を実現する制度を考える必要があるね！



GOAL
解決策の構想

Step4 先哲と他者との対話
先哲なら女性枠の設置をどのように考えるだろうか？自分の考えた解決策を他の人に提案してみたい！

Step4
様々な当事者視点からの考察
先哲と他者との対話

Step2 課題の自分事化
自分の志望大学が女性枠を設置したらどうだろう？女性枠によって不合格になるのは不公平ではないか。



Step3
当事者の背景理解
課題解決の必要感の共有

Step3 解決の必要感の共有
自分も友達も周りの影響を受けて文理選択をしていた。社会の意識が違えば今は逆の選択をしていたのかも。



Step1 課題への共感
自分の中にも思い込みや偏見があった！今回の課題は自分達との接点がある！



Step2
課題の自分事化
既習事項の活用

Step2 既習事項の活用
授業で習った「公正」の概念から課題を捉えてみよう！授業内容を実社会の課題解決に生かせよう！

手立て②
スモールステップ方式による協働学習

主体性

解決策の構想に向けて、必要な学習課題を「ステップ」として段階的に用意し、自分達の方でゴールまでたどり着かせる**生徒主体の学習形態**。

当事者意識



Step1
課題への共感
学習意欲の喚起

Step1 学習意欲の喚起
無意識にバイアスがかかっていることに驚いた。こうした驚きや疑問があると、意欲的に取り組むことができる！

主体性

START
課題の提示

当事者意識

手立て① 現実の諸課題をテーマにしたパフォーマンス課題の設定

実社会の課題を自分事化すると共に、問題に直面する他者＝当事者の立場に立って学習課題に向き合い、様々な当事者の視点から望ましい社会の在り方について構想する場面の設定。

課題 公共B「主として法に関わる事項～法や規範の意義及び役割～」
ダイバーシティ＆インクルージョンを実現するために、入試制度はどう在るべきか？
～多様性を実現する公正な入試制度の在り方について提言しよう！～



生徒の実態

- ・自分は社会の一員であるという当事者意識をもつ生徒が少なく、社会問題に対する関心がない。
- ・授業での学びが、試験対策のための学びであるという意識が強く、学んだ内容を活用して社会的な課題を解決しようとする意欲や主体性をもつ生徒が少ない。

教師の願い

- ・社会にある課題を自分たちで解決して、自分たちが社会を作っていくという当事者意識をもってほしい。
- ・授業での学びが、社会参画のための資質や能力を養うためのものであることを認識し、学びを生かして社会的な課題を解決しようとする主体性をもってほしい。

成果と課題

- 単元学習のまとめの記述から、望ましい社会の在り方について言及する意見や、課題に対する自身の関わり方に言及する意見などが見られ、社会参画への当事者意識の高まりを感じ取ることができた。
- 他者と協働しながら課題の解決策について積極的に話し合う姿が見られ、学習後のアンケートでは90%以上の生徒から、ステップ式の学習形態が主体的に学習に取り組むことに有効であったとの回答が得られた。
- 解決策の構想の深まりと社会参画への当事者意識には相関関係が認められるため、一度構想した解決策を意図的に揺さぶるようなステップを後半に設け、生徒の思考を深めさせていく学習展開を模索していく必要がある。